

自動運転車の許認可・開発で先行する米国

◆カリフォルニア州で無人の自動運転車の公道試験が可能に

2018年4月2日、米国カリフォルニア州は、無人の自動運転車による公道試験の申請受付を開始すると発表した。カリフォルニア州は自動運転車の公道試験を許可していたが、事故に備えてドライバーが運転席にいることを義務付けていた。今後は、許可された企業は、サイバー攻撃に備えたセキュリティ対策や外部との双方向通信の装備などを条件に、指定エリアで無人の自動運転車の公道試験が可能となる。カリフォルニア州は申請した企業名を公開していないが、グーグル傘下の自動運転車開発会社Waymoが申請したと報じられ、Waymoも認めている。

◆自動運転車の開発も進む米国の自動車メーカー

米国では自動運転車の開発も進んできている。フィアットクライスラー・オートモービルズ（FCA）は5月31日、Waymoが18年後半以降、同社のミニバン6.2万台を追加購入すると発表した。WaymoはFCAのミニバン600台を利用して自動運転車を開発しており、両社は連携を強化することで、FCAの市販車への自動運転技術搭載を検討していく。GMも5月31日、傘下の自動運転車開発会社クルーズ・オートメーションが、ソフトバンクから22.5億ドルの出資を受けると発表した。同社は、19年にアクセルもハンドルもない完全自動運転車の実用化を目指している。フォードも17年9月から自動運転車によるピザ宅配の実証実験を行っており、21年には自動運転タクシーの大量投入を計画している。

◆消費者の自動運転車に対する安心感に課題

米国では、16年5月にテスラ車の自動運転中に追突事故で運転手が死亡する事故が起これ、18年3月にはウーバーの自動運転車が歩行者を巻き込む死亡事故が発生している。1月にロイターが発表した、米国民を対象にした自動運転車に関するアンケート調査では、「自動運転車に安心して乗れる」と回答した人は27%にとどまった。規制緩和や技術開発が進む米国の自動運転車であるが、現時点では消費者の信頼面での課題もありそうだ。

【今村弘史】